

研究実施のお知らせ

2025年9月24日 ver.1.0

研究課題名

泌尿器感染症における手術・処置・薬物療法に関する後方視的検討

研究の対象となる方

2006年9月から2033年3月までの間に、当院において尿路性器感染症（膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎）、性感染症（各種尿道炎、梅毒、肝炎、HIV感染症など）として治療（処置、手術、薬物療法）を受けられた方

研究の目的・意義

尿路性器感染症と性感染症は泌尿器科で取り扱う最も頻度の高い感染症（泌尿器感染症）であり、その種類や病態、病状は多彩です。

尿路性器感染症は主に膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎からなり、付随して腎膿瘍（膿瘍とは膿のたまりを指します）や後腹膜膿瘍に至ることもあります。病原微生物としては大腸菌が最多で、次いで *Klebsiella*（クレブシエラ）属、緑膿菌、腸球菌、ブドウ球菌などが挙げられます。現在、問題となっているのは最近の薬剤感受性（抗菌薬の効きやすさ）と患者さんの背景（糖尿病や尿路の基礎疾患の有無、カテーテル留置の有無など）であり、尿路に基礎疾患のない単純性尿路感染症よりも、基礎疾患のある複雑性尿路感染症で耐性菌の分離率が高い、とされています。特にキノロン耐性大腸菌、ESBL産生グラム陰性桿菌、キノロン耐性腸球菌などの動向には経時に注目していく必要があります。尿路性器感染症は、手術や処置を実施することの多い感染症としても注目されており、患者さんの背景や病原微生物によっては手術・処置や抗菌薬、全身管理が必要となるような、重症の感染症に至る可能性があります。

性感染症は性行為で感染する感染症であり、淋菌やクラミジア、マイコプラズマ等による尿道炎、梅毒、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、A型、B型、C型肝炎、HIV感染症などからなります。性感染症はコロナ禍でも減少傾向はみられておらず、保健所とともにその動向を注視していく必要がある。特に梅毒は全国的にも増加傾向にあり、2024年に全国的には減少に転じましたが、島根県や鳥取県ではいまだに増加傾向にあります。また、尿道炎や子宮頸管炎の原因となるマイコプラズマ・ジェニタリウムは世界的に薬剤耐性が進行しており、治療に難渋する症例も珍しくありません。

尿路性器感染症、性感染症の症例に対して、適切に手術療法や薬物療法を選択することが重要です。当院は島根県内で多くの症例が集まる施設であり、患者背景や病原微生物別に実施した手術・処置や薬物療法の有効性や有害事象を集積、報告する責務

があります。本研究は尿路性器感染症、性感染症を含む泌尿器感染症について、データを解析して今後の診療に活用しうるものです。

研究の方法

カルテから、患者さんの背景、感染症の原因や状態、治療（手術・処置、抗菌薬など薬物治療の内容）、治療結果（感染症の経過）、合併症などについて情報を収集します。これらの情報を解析して当院での泌尿器感染症医療の有効性、安全性を明らかにし、今後の診療のさらなる改善に努めます。

研究にあたっては、対象となる方の個人情報を容易に同定できないように、数字や記号などに置き換え、「氏名、カルテ ID、住所を削除した情報（どの研究対象者の情報であるかが直ちに判別できないよう、加工又は管理されたものに限る）」として統計学的手法により解析します。

研究の期間

2025 年 11 月 20 日から 2034 年 3 月

研究組織

この研究は島根大学医学部泌尿器科学講座が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部泌尿器科学講座 和田耕一郎

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。なお、利用停止については、2025 年 8 月までに発症された方は 2026 年 5 月までに、2025 年 9 月以降に発症した方は治療開始から 6 ヶ月以内に申し出ください。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部泌尿器科学講座 和田耕一郎

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2256 FAX 0853-20-2250